

# 令和7年度 川崎市社会教育委員会議 青少年科学館専門部会

## 次 第

日時：令和7年11月5日（水）14時

会場：川崎市青少年科学館 自然学習棟2階 学習室

1 開会

2 館長挨拶

3 議題

令和7年度 青少年科学館事業実施中間報告について . . . . . **資料1**

4 報告事項

(1) 第3回専門部会（事業視察）の希望調査について . . . . . **資料2**

(2) その他

5 閉会

### **参考資料**

- ・科学館だより
- ・プラネタリウムリーフレット

## 令和 7 年度 青少年科学館事業実施中間報告

## (1) 収集保存事業

分野	事業名	事業実施状況
自然	1 収集資料の収集・分類・整理（台帳化）	新規資料の作製を進める。収蔵庫にある未登録資料のうち既存の昆虫標本 4,000 点を目標に整理・登録（電子台帳化）進めており、これまでに未登録資料は 1,762 点を登録。
	2 GBIF 等国内外機関への資料情報の提供	「サイエンスミュージアムネット（S-Net）」「地球規模生物多様性情報機構（GBIF）」へのデータ提供による国内外への収集資料情報の公開、今年度は 10 月末に 1,100 点の提供を予定。
天文	1 プラネタリウム番組のアーカイブ化	番組制作の際に収集した資料、番組素材のアーカイブ化を行う。資料のデータベース化について、他館の事例を調査するなど検討を行う。
	2 天文資料の整理保存	故富田氏、故箕輪氏から寄贈された天文資料を整理保存し、目録作成を進める。太陽スケッチ等、紙資料のデジタル化を行っている。
科学	1 科学実験についての資料収集と保存・管理	科学実験教室等で提出される計画書・報告書を実践事例集の作成に向けて管理している。館内視聴を踏まえ、科学工作を紹介する動画更新のため、市民団体と題材の検討に入っている。

## (2) 展示事業

分野	事業名	事業実施状況（9 月末現在含む）	実施回数 （カッコ内は 年間予定）	観覧者数等 （延べ数）
自然	1 生田緑地の自然情報の発信	生田緑地における自然についてのリアルタイムな情報発信として、受付横の生田緑地マップを 2 週間に 1 度の頻度で更新、SNS を 21 回更新。	通年	—
	2 自然史資料による常設展示の更新	新たな標本・キャプションによる展示更新として、生田緑地の四季だよりを 2 回更新、ピックアップ展示を 4 回更新。	通年	—
	3 5 月 10 日の地質の日を記念した特別展示の開催	当館収蔵の川崎市地域文化財「オシ沼切通し多摩ローム層模式露頭剥ぎ取り標本」の 5 点、全長約 20m を 5 月 11 日に公開。	1 回	913 人
	4 企画展の開催	「どうなる？ どうする？ 生物多様性と外来生物」として、生物多様性と私たちの暮らしの関わりや外来生物によって引き起こされる問題に焦点をあてた企画展を実施。	1 回	9,479 人
天文	1 プラネタリウム一般投影（一般投影番組制作含む）	市民への天文知識普及を目的に、毎月テーマを変えて投影。	通年	36,765 人
	2 子ども向け投影（子ども向け番組制作含む）	幼児・小学生を対象に約 2 カ月ごとに番組を変えて投影 （土・日・祝日：1 日 1 回、夏・冬・春休み期間：1 日 2 回） 年度内に新番組を制作予定	通年	
	3 星空ゆうゆう散歩	平日午後シニア向け投影として実施。元職員の國司眞氏が解説を担当する。	5 回 (11 回)	748 人

	4	ベビー&キッズアワー	4歳までの乳幼児とその保護者を対象とした投影を第1木曜日、第3水曜日（学校の長期休業期間等を除く）に開催する。	8回 通年	576人
	5	プラネタリウム学習投影	小中高等学校の学習指導要領に準拠した投影。この他幼稚園・保育園等を対象とした投影も実施。	通年	5,952人
	6	星空自由空間 （一般団体貸切利用）	平日に一般団体による貸切利用を受入れ。投影内容等のカスタマイズに応じる。病院職員のレクリエーションとしての利用が1件あった。	1回 通年	90人
	7	プラネタリウム字幕付投影	聴覚障がい者向けに字幕解説付きのプラネタリウム投影を2月に実施予定。	(1回)	—
	8	天文関連展示事業	天文に関する常設展示の他、プラネタリウム番組やイベントに関連した写真展など企画展示の開催。 春、夏の星に関するミニ展示を実施。本庁舎でのオーロラ写真展を開催予定	通年	—
科学	1	市民協働の科学工作展示	サイエンスワークショップの広報として、市民団体から提供を受けた工作物等を週毎の入れ替えを基本に展示している。科学実験教室・サイエンスワークショップ等で取り組んだ科学工作物や原理をパネル展示や映像資料として公開するため、科学市民団体と題材の検討に入っている。	通年	—

### (3) 調査研究事業

分野	事業名	事業実施状況（9月末現在含む）
自然	1 市域の生物調査	生田緑地を中心として、市域における動植物相解明を進めるための生息種の確認調査を行うとともに、生息状況把握のための実態調査を継続中。
天文	1 川崎市域の星の見え方調査	市民協働により川崎市域における星の見え方調査を継続して実施する。夏の肉眼での調査には95件のデータが集まった。
	2 天体の観測	太陽望遠鏡での白色光及びH $\alpha$ 光による太陽観測、アストロテラス、天体観測室の望遠鏡及び冷却CCDカメラ等の観測装置を活用した観測的研究を行う。
科学	1 ワクワクドキドキ玉手箱の開発	玉手箱の新たなテーマとして、生物の多様性について体験を通して学べるキット「生きものを探ろう」の開発を10月末より進めるために市民団体と準備中。
	2 GIGA 端末用教材の改良及び開発	地層観察会に参加した川崎市内の小学校にGIGA 端末上で公開している小学校地層学習の教員向けデジタル教材を紹介することを通して、教材に対する意見を収集している。また、中学校向けGIGA 端末用教材の開発については10月から本格化してくる学校の地層観察会の様子を基に、11月以降検討予定。

## (4) 教育普及事業

分野	事業名	事業実施状況 (9月末現在含む)	実施回数 カッコ内は年間予定	観覧者数等 (延べ数)
自然	1 生田緑地観察会	生田緑地の地質、野鳥、植物、昆虫などをテーマに観察会を実施、雨天で2回中止。 (市民団体が講師)	8回 (25回)	172人
	2 サイエンス教室 (自然分野)	収蔵庫を見学するバックヤードツアー、学芸員のおしごと体験教室、多摩川での観察会を含む教室等を実施。	4回 (10回)	47人
	3 サイエンスワークショップ (自然分野)	特別展示とあわせて実施するワークショップを含め、動植物等をテーマに、自然に興味関心を持つきっかけとなるワークショップを実施。	8回 (14回)	524人
	4 自然サポーター研修会	自然分野の調査研究等を行う自然サポーターを養成することを目的とした講座を4回連続講座で実施。	1回 (4回)	10人
	5 自然観察(地層・林)	学習支援を目的に、小・中・高等学校の依頼に基づき、生田緑地内の地層観察、林の観察を実施。	1校2回 (通年)	265人
	6 総合的な学習の時間支援	小・中・高等学校の依頼に基づき、生活科・総合的な学習の時間の支援を実施。	1校2回 (通年)	35人
天文	1 アストロテラス公開	平日の昼間アストロテラスにて太陽の観察を行う。 月に2回程度、日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽と1等星や惑星などを観察する。	公開15回 昼星2回 通年	一般公開 483人 昼間の星 196人
	2 アストロテラス夜間一般公開	日没後アストロテラスにて当日自由参加の天体観察会を実施する。	2回実施 5回中止 (13回)	366人
	3 特別観望会	珍しく観察しやすい天文現象等を観察する観望会を開催する。11月22日に環が消失した土星の特別観望会を開催予定。	(1回)	—
	4 プラネタリウムワークショップ	小学生を対象とし、プラネタリウムの番組を企画・制作・投影する教室を実施し、12人の受講生が参加している。3月に発表会を開催予定。	5回 (12回) 連続講座	57人
	5 プラネタリウム発表会	近隣の学校と連携した事業として日本女子大学附属高等学校と連携し、天文クラブ生徒によるプラネタリウムの番組制作、投影発表会を実施した。	1回	132人
	6 天文講演会/天文講座	外部から講師を招き天文等に関する講演会を開催する。	(1回)	—
	7 天文サポーター研修会	定期的に会合を実施し、事業の準備や研修を行い、スキルアップと事業の充実を図る。	6回 (12回)	延べ69人
	8 プラネタリウム イベント 投影	プラネタリウムの星空と音楽や映像を楽しむコンサートや映像イベントを開催する。 7月にウクライナのプラネタリウム解説員を招いた特別投影を実施した。 また、11月に東京交響楽団団員によるコンサート、12月にオーロラ特別上映会を開催予定。	1回 (3回)	100人

	9	かわさき星空ウォッチング	アストロカー(移動天文車)で市内各地に向き、天体観察会を実施する。9月から依頼に応じて対応している。	1回 通年	138人
	10	サイエンス教室 (天文分野)	アストロテラスの望遠鏡を使った天体観察等を体験する教室や、小学生を対象としてプラネタリウムの解説など、天文学芸事業を体験する学芸員のおしごと体験教室等を実施する。	5回 (10回)	79人
科学	1	出前科学実験教室	小中学校等の依頼に基づき、市民団体を講師として派遣し、ワクワクドキドキ玉手箱を活用して行う科学実験教室。	23回 (通年)	733人
	2	サイエンス教室 (科学分野)	様々な年代を対象に、科学の楽しさに触れられる実験や工作を行う事前申込制の教室を実施している。	14回 (29回)	251人
	3	サイエンスワークショップ (科学分野)	子どもから大人まで楽しめる当日参加型のイベント。サイエンスをテーマにした簡単な工作や観察・実験を実施している。	27回 (49回)	2,092人
		科学実験ショー (サイエンスショー)	ワクワクドキドキ玉手箱を活用した科学実験ショーなどの開催 ※11/3、2/23の2日間を予定	0回 (2回)	—
	4	第20回かわさきサイエンスチャレンジ	子どもの科学への関心喚起・促進を目的に、KSP(かながわサイエンスパーク)で開催される「かわさきサイエンスチャレンジ」に参加し、8つの科学実験工作ブースへの出展協力をした。	1回	961人
	5	科学サポーター研修会	科学実験指導者を養成することを目的とした講座を実施した。館内イベント(教室やワークショップ)での実習を含め全6回の講座を行い、受講者11名が修了した。	6回 連続講座	延べ61人
	6	子ども創意くふう教室	一人ひとりの創造性を伸ばすことを目的とした講座を11月に開始予定	0回 (5回)	—
	7	出前教室	科学館職員が、実施団体から依頼を受けて自然や科学、天文に関するテーマで行う出前教室。	通年	学校からの 依頼受付中
	8	学校支援 ゆうゆう広場科学実験教室	川崎市適応指導教室(ゆうゆう広場)に通う小中学生を対象に、科学館や各ゆうゆう広場にて行う科学実験教室。	10回 (24回)	95人
9	学校支援 かわさきGIGAスクール構想	学校の理科教育をより一層充実させるため端末を活用したデジタル教材を提供している。	通年	公開中	
出版事業	1	青少年科学館「紀要」等 出版物の刊行	調査研究等、学芸事業の成果を「紀要第36号」に取りまとめ、PDFファイルを科学館ホームページで公表予定。	通年	—
	2	地層観察ガイドブック改定版の発行	地層観察ガイドブック改定版を科学館ホームページで公開予定。	通年	—

## (5) ネットワーク事業

分野	事業名	事業実施状況 (9月末現在)	実施回数	観覧者数等 (延べ数)
展示・企画	1 FIELD MUSEUM 展	令和8年1月開催予定の専修大学「FIELD MUSEUM 展」に向けて、生田緑地の体験型教材として地層フィールドワーク (学生45名参加) を開催した。	0回 (1回)	—
調査研究・収集保存	1 川崎市域の生物調査	「かわさき自然調査団」と共著で調査結果を公表予定。「神奈川県植物誌調査会」の川崎ブロック事務局として資料の受入、問合せ等に対応する。	通年	—
学習支援	1 職場体験・職業インタビューの実施	市内中学校の職場体験では6月2校、9月1校を、市内高等学校の職場体験であるインターンシップを8月に1回受け入れた。	4回 (通年)	12人
	2 中学校連合文化祭開催への協力	市内の中学生が集まる市中学校理科作品展受賞式及び研究発表の会場として協力。10月22日(水)に開催予定。	0回 (1回)	—
	3 教員・職員等研修の受入れ ・教員研修 ・教員社会体験研修 ・博物館実習	総合教育センターの依頼により、中学校理科初任者に対する科学実験研修を7月(16名)に実施した。市内の小中学校及び理科研究会などの依頼により、地層観察や天文の研修会を7月(57名)に実施した。横浜国立大学CST養成講座を9月(15名)に実施した。博物館学芸員を志す学生(8名)を受け入れ、8月に2週間の実習を実施した。	通年	96名
地域振興・生田緑地内	1 図書館、区役所等との共催事業の実施	区民祭等多摩区役所が実施する各種イベントの共催、連携を推進する。	通年	—
	2 地域の大学、団体等との共催事業の実施	5月に川崎天文同好会と共催の講演会を開催した。また、9月に多摩天文グループと共催の写真展を開催した。	通年	—
	3 日本民家園との「七夕」「お月見」事業の共催等、生田緑地内施設との共催事業の実施	「七夕」「お月見」事業を日本民家園との共催により実施した。七夕体験ではプラネタリウム投影時に短冊の配布、民家園での七夕飾りつけや機織り体験を行った。お月見では民家園でのお月見トーク、プラネタリウムを実施した。	通年	七夕投影666人 お月見投影200人
	4 生田緑地内施設及び指定管理者との広報活動の推進、各施設の回遊性の向上	全体会議、広報担当者会議の参加、協力により、緑地内施設と指定管理者との情報共有、横断的広報活動の推進を図っている。生田緑地内施設、藤子・F・不二雄ミュージアムとの連携によるスタンプラリーの開催、生田緑地内の紹介をするフリーマガジン(もりのにじ)の作成等により施設の回遊性の向上を図った。	通年	—

(6) 管理運営

	事業名	事業実施状況 (9月末現在)
管理運営	1 管理業務	指定管理者と連携し、館を円滑に運営するとともに、予算を計画的に執行している。 指定管理者については、円滑な事業運営を行っている。また、構成企業の強味を生かした自主事業を行っている。
	2 危機管理	防災点検表による館内諸室・設備の定期点検を職員が分担して実施、毎月点検・報告を行っている。 災害時の初動対応マニュアルについて、他施設の取組も参考にしながら精度を高める。今年度は9月26日(金)に館職員、指定管理者、ショップ及びカフェの関係者が参加して消防訓練を実施した。2月又は3月にも訓練実施予定。
	3 進行管理	青少年科学館専門部会での指導・助言や事業評価を踏まえて年度事業計画を策定し、内容や実施方法についてより適切な方法等を検討しながら事業実施・進行管理を行っている。
科学館の魅力を高めるサービス展開	1 広報計画	科学館だより、プラネタリウムリーフレット、ホームページ、SNS等による情報発信を積極的に行うとともに、緑地全体の広報活動と連動した情報発信を行っている。6月には新たにInstagramでの発信を開始するとともに、12月までにFacebookの更新を停止する。 毎月1回定期的にかわさきFMへ学芸職員が出演しているほか、ラジオやテレビ、新聞雑誌等の刊行物の取材を積極的に受け広報に努めている。
	2 魅力を高めるサービス展開	科学館スタッフが適切な案内及び接遇を行うほか、学芸部門の職員によるレファレンス対応、ショップ及びカフェにおけるサービスの向上等により、館全体の魅力向上を図っている。
	3 多様な利用者への配慮	バリアフリー関連設備・用具、表示の保全と研修等による人的支援の充実を図るとともに、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意し外国人来館者への利便性向上を図っている。 プラネタリウムではヒアリングループ(磁気ループ)受信機の貸し出しを行い、聴覚障害者など、補聴器等を使用している方の「聞こえ」をサポートしている。